

65. 障害者の8020をサポートするための支援体制に関する研究

横尾金紹（佐賀県佐賀中部保健福祉事務所）

古川次男（佐賀県佐賀中部保健福祉事務所）

石橋芳子（佐賀県佐賀唐津保健福祉事務所）

上松初美（佐賀県佐賀中部保健福祉事務所）

池上幸江（佐賀県佐賀中部保健福祉事務所）

はじめに

佐賀中部保健福祉事務所では、平成6年度より在宅の障害児等を対象に個別健診、ブラッシング指導を行う歯科保健事業を実施している。今までの受診者の口腔内の状況を分析した結果、健常者に比べ、20本以上の歯を有する者の割合が少ない等の結果が得られ、地域で生活する障害者は、若い時期から歯周疾患に罹患し年齢が上がるにつれ、歯を喪失している状況がうかがえる。

また当所の歯科相談を利用後に地域の歯科医院への受診につながっていても、受診のきっかけは歯痛が強くなる等、口腔内のう蝕、歯周疾患の状態が重度になってから受診している者が多く、重症化したために、遠方にある障害者専門歯科医療機関に受診が限られている障害者もいる。また、障害者専門歯科医療機関での治療終了後、定期管理やブラッシング指導を受けるために地域の歯科医院受診へは結びついていないのが現状である。

地域における障害者の8020を達成するためには、歯科医療における地域のかかりつけ歯科医機能の普及定着を図るとともに、各歯科医療機関の機能分化と医療機関の連携による地域歯科医療のシステム化が必要である。

本研究において、障害者の誰もが身近な生活圏内で安心して歯科受診ができる環境整備を行うためにその体制整備及び、かかりつけ歯科医としての資質の向上を図るための研修会の実施、また障害者自身がセルフケア能力を高めるとともに、生活介助者のブラッシングに対する負担を軽減するためのサポート媒体の作成を行い、障害者の8020を推進するための一助とする。

研究概要

1 研究期間 平成20年4月～平成21年3月

2 研究内容及び結果

歯科医療従事者等を対象とした研修会

目的) 障害者歯科医療に携わる歯科医療従事者の資質の向上、及び各機関(歯科医療機関・障害者支援機関)における連携体制の整備を図る。

	内容・会場・参加者数等
1 回 目	講演「一般歯科医院で行う障害者の歯科診療」 講師 佐賀市 西村歯科医院/院長 西村賢二氏 会場 佐賀県歯科医師会館 講堂 参加者数 82名
2 回 目	講演「自閉症児への医療サポートと歯科医療従事者の役割」 講師 京都府亀岡市 社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター/歯科衛生士 高原牧氏 会場 佐賀県看護協会 研修室 参加者数 68名
3 回 目	テーマ「歯科診療における医療と福祉のコラボレーション～はじめの一步編」 活動紹介「障害者支援者から歯科医療との連携の実際」 紹介者 NPO 法人それいゆ/成人支援センター長 水野敦之氏 NPO 法人ライフサポート HAL/理事長 福島龍三郎氏 小城・多久障害者地域自立支援協議会/相談員 原田健氏 座長 佐賀市 西村歯科医院/院長 西村賢二氏 会場 佐賀県歯科医師会館 講堂 参加者数 46名

結果) 1 回目、2 回目の研修会では地域で障害者の歯科診療に従事している歯科医療専門職より、実際の障害者の歯科診療で行われている具体的な支援内容を事例をとおして紹介され、参加者から「地域の歯科医院で早速活用できる。」等の感想が寄せられた。

また 3 回目の研修会は、障害者を支援する者と歯科医療従事者が連携をとり、障害者の歯科医院への受診がスムーズに行えるようにするため、その具体的な連携方法に関する研修会を行った。

障害者のブラッシングサポート媒体（家族や支援者のための歯みがき支援ブック）の作成

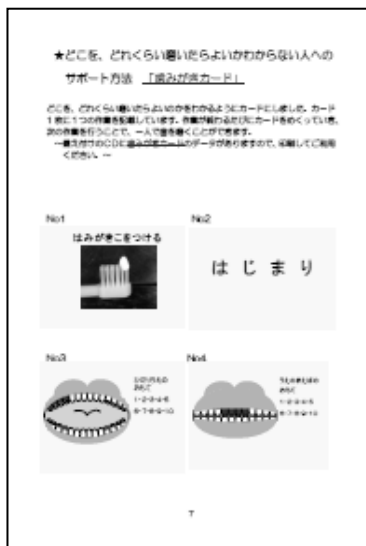
目的) 障害者のブラッシング能力を高め、生活支援者のブラッシングに対する負担を軽減する。

内容)

- ・当所では管内歯科医師会や歯科衛生士会、障害者支援NPO等をメンバーとした検討会（名称：チャレンジド 8020 歯科保健医療ネットワーク検討会）を開催し、障害者の歯科保健医療体制整備を進めているが、この検討会にて掲載内容の検討を行った。
- ・作成の際には試案を数箇所の障害者支援施設でモニターとして試用していただき、

アンケートをとり内容等の修正を行った。

- ・写真を取り入れ、具体的な介助方法がわかるようにしている。
- ・画像を電子データで公開しているのので、パソコンを持っていれば、利用の際に、使い勝手の良いサイズ等で利用することができる（歯みがき支援ブックにCDを添付している。）



結果) 助成金を活用し 300 部印刷し、当所管内の障害者福祉施設、特別支援学校等へ配布を行った。また地元新聞にて本支援ブックの周知を行ったところ、インターネットを通じて全国各地に情報が広がり、県内・県外の歯科医師や特別支援学校等、障害者歯科医療関係者より問い合わせがあり、多くの障害者歯科医療従事者に配布することができた。

利用者からは、「具体的な支援方法がわかってよかった。」「写真がついているのでわかりやすく、また本人(障害者)へも提示しやすかった。」等の意見が聞かれた。

考察

歯科医療従事者を対象とした研修会については、その内容・方法含め、当保健福祉事務所で実施している検討会で検討を行い、地域の歯科医療従事者と障害者支援 NPO 等とともに問題点等を共有することで、歯科医療従事者のニーズに応じた研修会を実施することができた。研修会の開催にあたっては、当保健福祉事務所管内の地区歯科医師会、歯科衛生士会と共催で実施し、多数の専門職の参加を得ることができた。今後も地域の関係機関と連携をとりながら効果的に、障害者が地域の医療機関にかかりつけ医をもてるようになるための体制整備を行っていきたい。

研修会を実施後に、研修会参加者にアンケートを行った。アンケートには障害者の歯科医療について前向きに受け入れていきたい等の回答が得られ、歯科医療従事者が障害に対

する理解を深めるとともに、具体的な対応方法を知るきっかけになったようだ。しかし、「地域の開業歯科医では限界がある。」という意見や「どこまで地域の開業歯科医でフォローすべきかわからない。」等の意見も多く聞かれ、まだまだ障害者の地域での歯科医療受診に結びつくには多くの課題がある。今後も地域の開業医が一次医療機関として障害者を受け入れやすくするためのツールの開発等、関係機関と連携を取り行っていく必要性を感じた。

障害者のブラッシングサポート媒体（家族や支援者のための歯みがき支援ブック）については、平成 19 年度より当所で実施している検討会にて、障害者の歯科保健の向上を図り、障害者の生活介助者の負担を軽減するために、障害者の保護者や作業所等の職員等障害者の生活支援を行う者を対象に歯科保健サポート媒体を作成したいという思いが、本助成金を申請する大きなきっかけとなった。

サポートブックの内容については、原案は歯科衛生士と保健福祉事務所保健師で連携を取り作成したが、具体的に絵や写真の配置等内容の構成について検討会を活用し歯科医師や障害者支援 N P O 等より意見をもらうことができた。この支援ブックを手にする人が使いやすい物になるよう、よりそのニーズに配慮することができたと思う。

実際に使用した人からは「具体的な支援方法がわかってよかった。」「写真がついてるのでわかりやすく、また本人（障害者）へも提示しやすかった。」等の声が寄せられ、障害者の生活の場でスムーズに使いやすい媒体になったと思われる。

研修会、サポートブックの作成、このどちらにおいても、当事務所だけでなく歯科医療の専門家である歯科医師・歯科衛生士、障害者の生活支援の専門家である障害者支援 N P O 等と連携をとることで効果的に実施できたと思う。

今後は歯科医療の場において、歯科医療従事者と障害者支援の専門家である職種等のコラボレーションがスムーズに行えるように、当保健福祉事務所がコーディネートを行い、これらの機関と連携を取りながら支援していきたい。

謝辞

本研究に対して貴重な研究費をご提供いただきました財団法人大同生命厚生事業団に心より感謝申し上げます。

経費使途明細

年月日	摘 要	払
H20.10.24	需用費（研修会用消耗品等）	7,129
H20.10.24	需用費（支援ブック用消耗品等）	54,447
H20.10.25	使用料（10/25 講演会 看護協会）	8,200
H20.10.25	報償費（10/25 講演会 高原牧氏）	24,000
H20.10.25	費用弁償（10/25 講演会 高原牧氏）	41,200
H20.10.25	役務費（10/25 講演会 講師送迎タクシー代）	2,540
H20.10.25	役務費（10/25 講演会 講師送迎タクシー代）	2,540
H20.10.29	印刷費（支援ブック印刷）	113,400
H20.10.29	役務費（支援ブック郵送切手代）	33,600
H20.11.14	印刷費（支援ブックCD印刷）	65,100
H20.11.27	報償費（日々雇用4日分～研修会・支援ブック用務）	24,000
H20.11.27	費用弁償（日々雇用4日分～研修会・支援ブック用務）	6,160
H21.1.15	印刷費（支援ブック増刷100部）	94,500
H21.2.9	切手代（支援ブック郵送切手代）	6,560
H21.2.9	需用費（支援ブック追加印刷分消耗品等）	21,624
計		505,000